第１回　丹波市子ども・子育て会議　会議録

【開催概要】

会　議　名　称	第１回　丹波市子ども・子育て会議
開　催　日　時	令和６年７月３日（水）14:30～
開　催　場　所	健康センターミルネ　２階　会議室１・２
出　席　委　員 （名簿順表記）	徳田晋也、高藤祐美、足立映美、藤本裕二、石野秀明、八尾由江、谷口千尋、安田千代、吉見直人、内田順子、大木康次、細見善弘、臼井里佳 （計 13 名）
欠　席　委　員	小田敏治、加納史章、大槻真也、中川優一、後藤和敏、砂川雅城 （計６名）
事　務　局	健康福祉部長　徳岡泰、子育て支援課長　西山健吾、 健康課長　大野昌也、健康課副課長　山本美智子、 社会福祉課長　大西万実、教育部次長兼学校教育課長　山本浩史、 子育て支援課認定こども園係長　福田みさ代、 子育て支援課子育て支援係長　足立和哉、 子育て支援課子育て支援係主査　荻野克典
会　議　次　第	１．開会 ２．委嘱書交付 ３．会長挨拶 ４．委員紹介、事務局紹介 ５．議事 　①利用者アンケートの集計結果について 　②子ども・子育て支援事業計画の進捗管理・評価について 　③丹波市こども計画の策定について ６．その他 ７．次回会議日程 ８．閉会
会　議　資　料	資料１　丹波市子ども・子育て支援事業計画　見込量・確保量・実績 資料２　子育て支援に関するニーズ調査結果（概要） 資料３　小５・中２アンケート調査票（案） 資料４　丹波市こども計画策定業務スケジュール表 別冊①　令和５年度丹波市子ども・子育て支援事業に関するアンケート集計結果 別冊②　こども計画策定に係る関係団体ヒアリング結果報告書 当日配布資料 　各種調査結果における課題抽出（ニーズ調査・関係団体ヒアリング）

【議事要旨】

	１．開会
事務局	委員の皆様方にはお集まりいただき感謝申し上げる。 ただいまから令和６年度の第１回丹波市子ども・子育て会議を開催する。 ・・・

会長	ただいまの報告についてご質問はあるか。 今回の集計には批判的なご意見も入っていたのか。
事務局	要望や具体的な意見も多くみられる結果となった。
委員	妊娠時のタクシー券はあまり使い道がなかったと記載があるが、このタクシー券は陣痛の時には使用できないのか。
事務局	妊婦等へのサポートとして配布している。利用は可能だが、利用するタクシー会社によって使えない場合もあると把握している。
委員	事前に陣痛時に使用できない可能性のあるタクシー会社の名前を明示いただければありがたいと感じる。
事務局	使用の可否も含めて、把握に努める。 非常にたくさんのご意見をいただいており、満足度によってまとめている。確認事項があれば、後からでも構わないのでご指摘いただければと思う。
委員	満足度が前回に比べて、全体を通して向上しているのか数値の変化があるのかお聞きしたい。 例年、この会議に参加させていただいており、私自身は制度の向上を感じているが、実際に市民がどう思っているのか数値上の把握も必要だと思う。
事務局	数値を確認の上、後ほど報告させていただく。
会長	それでは次に②について説明をお願いする。
	・・・

事務局	現行計画は令和４年度に見直しをしており、令和６年度の計画期間の終了に合わせ、令和７年度からの計画を策定する中で新たな見込み量を確定させることとなる。今後、こども計画という新たな形で策定を進めている状況である。
委員	認定こども園在園児以外の施設として青垣地域の数値が多いがどういう状況なのか。
委員	他町で受け入れられなかったお子様を青垣地域の施設で受け入れた現状があった。対応する職員数など受入れ体制にも課題はあったが、困っている保護者を助ける思いで受け入れをしたため、このような数値となっている。
委員	待機児童を認定こども園あおがきさんが受け入れられたということか。 きょうだいがばらばらになっている場合もあるということか。
事務局	きょうだいを同一の園に入園させてあげたいという思いはあるが、保護者の育休等の関係で年度途中からの入所となった場合に、園の職員数の関係で受け入れらないこともある。この場合には、入所保留という扱いになる。 先程、待機児童とおっしゃったが、保護者が育児休業取得中は待機児童という扱いにはならないため、市内では待機児童はいないこととなる。 この入所保留の家庭でどうしてもこどもを一時的に預かってほしいという希望がある場合に、今回のように認定こども園あおがきさんや一時預かりのＴプラスさんに預かっていただくという現状である。
会長	ご意見感謝申し上げる。それでは、議事③について、まずニーズ調査の結果のご報告をお願いする。
	・・・

事務局	こども計画を策定するにあたり対象は 40 歳までとなるが、今回のニーズ調査は就学前児童と小学生を対象とした調査である。 こども計画の策定にあたっては、こども・若者計画を包含することを検討しており、対象はその認識で間違いない。
委員	ニーズ調査の当日配布資料の課題抽出④絵本の読み聞かせについて、こども園でも毎年アンケートを取るが、読み聞かせしている家庭が例年少ないのが現状。毎月２回ほど絵本の貸し出しを行っているが、伸び悩んでおり、全体的な傾向と言えると思う。対策として、参観日に保護者対象に絵本を読む機会を作るが、非常に好評であり、園としては継続して続けていきたいと思っている。
委員	対象が広く意見を言うのも難しいが、まず、調査結果から見える課題についてまとめていただきありがたい。 丹波市を全体として見たときに、子育て支援以外の予算も確保しなければならず、限りある予算での子育て支援の充実を図ってこられたと思うので、その部分には感謝している。 本計画策定にあたっても、今の課題に対して予算の割り振りは非常に重要だが、これまでの課題と違うと感じることは、不登校が大きく増えているということである。深刻な問題であり、丹波市子ども・子育て支援事業に関するアンケート集計結果にも切実な思いがつづられている。勉強が全く進まなくなったり、うつ病につながるものでもある。 こどもの心に寄り添い、個々に応じた支援が必要だが、学校がすべて対応できる状態にはないのが実情である。 不登校となった現状を恥ずかしいと思う子も多く、学習面でも置いてけぼりになってしまうことも多い。 これだけの課題を解決するために人員不足は大きな課題で、一時預かりもその一つである。 働く側も母親であるし、私くらいの世代は介護も兼ねていることが多い。女性も社会に出て働く中で、労働者の働き方として短時間や柔軟な労働環境があるのはありがたいことだし、重要なことだと思う。
事務局	本市において不登校は増えている。全国的な傾向であるが、要因としてはコロナによってコミュニケーションの希薄化と漠然とした不安感の蓄積によるものが大きいと思う。 休むというのも一つの選択肢として、こどもたちの一時的な緊急避難の意味ではなしではないと考えている。 ただ、将来的な社会的自立を考えた上で、学校へ行かないことのデメリットは非常に大きいため、支援策の重要性は認識している。 居場所づくりも今までも行っていたが、支援者不足の問題があった。

	数は現状も足りていないが、小学校は20校中15校に、中学校は全校に人材を配置した。別室登校が可能な状況が進みつつある。 学校へ来れない子への支援をどうするのかは学校と行政で検討が必要である。 本市では教育支援センターというかつては適応教室であった施設があり、利用者は少ないが充実を図りつつ、いかに多様な居場所をつくっていけるかが課題である。
委員	少子化でこどもが減っている中でもそういった課題が出ているということで寂しい気持ちである。誰かが手を差し出すことが重要であるが、両親も相談や支援を希望されないこともあり、民生委員もなかなか踏み込めない問題である。教育委員会でもがんばっていただきたいと思う。
委員	課題はその子によって様々である。 ニーズ調査では子育てにおける悩みや不安の結果もあるが、最近の保護者はよく勉強されていらっしゃるが、色々と悩んでおられる。教育委員会が言ったように、個に応じた適切なアドバイスができるところが充実していれば、家庭も学校も同じ方向に向いていけるのではないか。 徐々には充実されているが、相談を申し込んでも半年待ちといった状況もあり、今後のさらなる改善をお願いしたい。 市で長年呼びかけている「早寝・早起き・朝ごはん」の朝ごはんについては現在は、ほぼ喫食率100%と児童生徒・保護者の意識は改善している。地道に啓発し普及を図ることが重要と思う。
委員	私の所属する事業所でも生活困窮世帯の相談に乗ることが多い。 話を聞くと、家庭に不登校児童生徒や30～40代の引きこもりの方がいらっしゃる状況がある。こういった状況を把握し、昨年度から事業を新設し、そのような相談を一手にうける職員を配置することで、子ども・若者サポートセンターと連携を取りながら就労に向けた取組を進めている。 課題を抱えている方々と社会をつなげる一助になればと活動を継続してまいりたい。
事務局	子ども・若者サポートセンターについて、訪問相談・電話相談・ＳＮＳ相談等実施している。 利用人数は近年増加しており、潜在的に利用が必要な方はまだまだいらっしゃるため、事業の拡充を図っていきたい。 また、地域の資源につなげることができるよう、資源の発掘及びアウトリーチ支援に取り組んでいかなければと考えている。 サポートセンターは香良の市営住宅の一角で実施しており、利用者の増加に伴い、来年度以降は春日の旧デイサービスセンターの跡地の改修を進め、より多

	くの方の利用につながればと考えている。
委員	子ども・子育て会議ということで、以前は就学前児童に焦点があたっていたが、対象が広がっていることを感じている。 こども園では、利用者はだんだんと減少傾向であるが、担い手も少なくなってきている。本計画策定にあたっての考えをお聞かせ願いたい。
事務局	こども計画の策定にあたっては、子ども・子育て支援事業計画が含まれ、人口推計に基づくニーズ量の設定が記載されることとなる。就学前の教育・保育も記載することになるため、ご指摘の担い手の育成の確保も含めて検討いただくこととなる。
事務局	当初この会議は、子ども・子育て支援事業計画策定や評価のための会議であったが、こども家庭庁の発足にともない、こども大綱が策定され、こども・若者計画やこどもの貧困対策計画を含む幅広いこども計画を策定することとなっている。そういった中で、少子化のことや就学前・就学後・卒業後のこども・若者のことを含め、皆さんの知見を活かした意見をいただきながら、今後の施策を含めて検討していきたいと考えている。
委員	こどもの数の減少は顕著だが、受け入れ側の職員数が足りていないのも実情である。 産休・育休、短時間、看護休暇等、若い職員に向けた制度は充実してきているが、こどもが減っても保育現場の忙しさは毎年増加しており、支援が必要なお子さんが増えていることも要因であると思う。 支援が必要なお子さんに向けては、数年前と比べ、市内に支援してくださる施設が充実してきており、非常によかったと感じているし、保護者の安心にもつながっていると感じる。 若い職員定着のための施策の充実を図らないと、人材は他市に流れていくだけである。市で人材確保に向けた施策展開はないのか。
事務局	本市も福祉人材の確保について、色々と施策を展開しているので紹介する。 福祉人材の確保については、喫緊の課題と認識している。 昨年・今年度と人材確保の対策のための会議を設け、来年度以降の方針を検討中である。 補助については就職奨励金・家賃補助を行っている。アンケート結果では、移住者等において補助金が役に立ったと６割ほどの人から声をいただいているが、より丹波市に合った効率的・効果的な支援を検討中であり、現場からのお声をお寄せいただければ大変ありがたいと考えている。

事務局	保育士不足のなかで、今年度は養成校へバスツアーをお願いし実施予定ではあるものの、応募が少ないのが現状である。 また、昨年度市内の潜在保育士 360 人ほどへの初めてアンケートを実施した。結果、年齢層の高い方は市内にいらっしゃるが、やはり若者は他市町へ移り住んでおり、市内に在住している潜在保育士は少ないことが分かった。 意見としては、仕事内容と処遇・給料が見合っていないという意見があったが、昔と比べると給与面も改善されてきていると思うので、そういった情報のＰＲも必要かと感じた。 また、保育士資格がないため保育士としては働けないが、子育て支援研修を受講いただき、資格を得ることで保育士補助業務を担う人材 30 名ほどを昨年度輩出し現場で活躍いただいている。 都会では待機児童がいることで国による家賃補助金があるが、丹波市は待機児童がいないため、その補助金が使用できない現状がある。その中で、本市でもできる限りの支援を考えていかねばと思っている。
会長	多数ご意見をいただき感謝申し上げる。 今後の計画の策定において、ご意見をいただく機会があると思う。本日の資料もご確認いただき、忌憚のないご意見をいただければと思う。 また、丹波市としてどれぐらいの予算が使えるのか明確にしていただければ、議論にも現実味を帯びてくると思う。 不登校・生活困窮世帯・配慮を要するお子さんなどの問題については、どこの自治体でも大きな課題になっていると思う。そのあたりの充実については、既にご尽力いただいているところではあるが、何か独自のアイデアがあればご意見を頂戴できればと考える。 それでは、続いてこどもへの意見聴取のためのアンケート調査について説明をお願いする。 ・・・

会長	実施が学校となるので、慎重に内容を協議いただければと思う。
事務局	●スケジュール表を用いて説明 ・こどもへの意見聴取を７/８～７/19 実施予定 ・８月末子ども・子育て会議開催予定 　こども意見聴取報告書、ニーズ調査等を盛り込んだ骨子案の報告 ・９月～計画素案の作成 ・１月パブリックコメント実施
	・・・